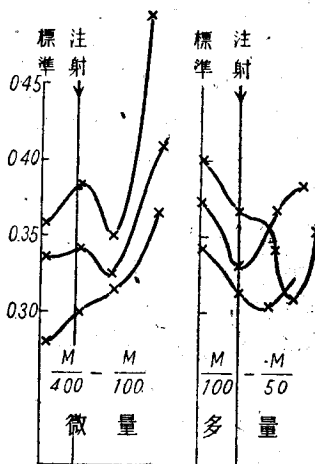


微量硫酸銅の白鼠炭酸瓦斯生産量に及ぼす影響

田所 哲太郎 橋本 治三

(北海道帝國大學理學部生物化学教室)

微量銅鹽の哺乳動物に必要な理由として、食欲増進と貧血防止とにあることを諸氏によりて報告されてゐるが、酸化促進に關して述べられたものは無い。一方銅鹽がビタミンCの酸化酵素の促進効果を有すること、最近に至りて證明されてゐるから、体内物質の酸化を行ふ酵素の賦活剤とも見做される。著者等は米粉と魚粉により飼育した體重214-258gの數匹の白鼠を使用し、つぎの實驗を行つた。即ち恒溫槽の0.2°正確度を有する+29°Cのものを使用し、白鼠の入る硝子容器は豫め恒溫槽中に保持し、然かも白鼠の自由の運動の不可能なる如き狹溢なる容器を使



用せり。硫酸銅液は  $\frac{M}{400}$  -  $\frac{M}{50}$  溶液の數種を使用し 0.5-1 cc 注射量により注射後、40分間を隔て、數回炭酸瓦斯を測定した。瓦斯は一定の速度により 15lの水を置換すべき空氣を流した場合の量で、圖の如く微量にありては常に炭酸瓦斯生産量を増大すること顯著であるが、量の大きな場合は却つて低下著しく回復することも困難なるのを認める。

[詳細は日本農産化学會誌に發表す]

(受附：昭和17年4月17日)

[醫學と生物學・第1卷・第9號・頁425・昭和17年5月5日]